

第三十七回帝國議會

人  
士  
三  
日

**松** 四十頁の  
 最大長篇  
 如桃  
 燕川  
**未乃伊取** 橘園  
**一夜分限** 柳家  
 小さん

情  
雪の頼川  
三遊亭  
圓  
和尙次郎  
正橋  
殿家  
件  
(三十二頁)  
の大長講  
悟道軒  
圓玉  
屋  
廊  
檜

繪の清方氏(津興)の雑録

夫 餘兒女學堂長  
大服天王寺  
中學校長  
東京女學院  
跡見 鈴木 芳 花  
見 橋 子 郎  
家庭談 ハイス夫人 芳 子  
文相の暮し句

年間の仕事割 の意識  
 年の と 迎へる覺悟 富田 修  
 年の 娯樂問題 三輪田元道  
 年 から改めたき事 (懸賞募集當選九案發表)

附録とす

全國各地書店

充實とに於て新年號

松 四十頁の  
 最大長陣  
 如桃  
 木乃伊取  
 一夜分限  
 小柳家

件 (三十二頁) 悟道軒  
 の大長講 圓玉  
 情 和 尙次郎 正橋 遊者  
 雪の瀨川 三遊亭 右衛門  
 繪 (清方氏) 雜錄 津與隊

夫 跡見元子 大服天王寺長  
 家庭談 (ヘイダ夫人 芳たつ) 柳橋 鈴木 跡見  
 文相の暮し 向 手塚 数枝 宮田 修  
 年間の仕事割 年々迎ふ覺悟 宮田 修  
 年の娛樂問題 三輪町元通  
 年々から改めたき事  
 (懸賞募集當選九案發表)

東京  
本町  
費別 全國各地書店

博文館

附録とす

賀状に書く法……佐藤梅園  
山陽  
の贈答品の注意 房子

**物**

▽信仰に活きる婦人…津村謙子  
 家庭の贈答品の注意…山陽房

■**社會百生活** (家計研究)

▽前金(郵税共)  
 四冊八十四錢  
 八冊一圓六十錢  
 十六冊一圓八十錢

定價は平常通り各書冊僅に

**拾錢** 郵税一錢 五厘

兩誌とも**特に卅一頁**を増大し**附録**とす

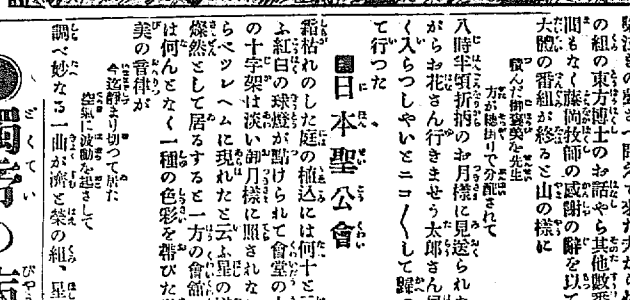
東京 博文館  
 本町 費獨 全國各地書店



楽しいく聖誕祭の宵の賑ひ

各教會に集つた、殊に長谷川町の  
■京城日本基督教會  
にては午後六時から盛大な聖誕祭が  
始まり委會約一千人實に近き繪々  
盛會であつた、此の夜會堂は正面壇  
上に日の丸旗を交差し又其の一隅  
には緑色なる

つた樺太郎さんの行列の様になる  
ろと押しかけて来る道に京城第一  
云はれる日臨學校だけあつて六時  
開會迄には  
聖歌の機なき騒がしく  
作る飾と云つては門前の綠門と金  
の降誕祭の樹と聖壇の後に設けら  
れた小飾とが目につく計りこれが反響



喉頭結核か  
喉頭癌か

△想像がつかない  
海牙の電報にある獨帯の病氣といふものは私には全く以て想像がつかね、何分にも京城から伯林の皇帝の病氣を陰察するといふやうなことは出来ようわけが無い、獨帯の御病氣は咽喉がお悪いと云ふことだから喉頭の御病氣だとは想像されぬから山來咽喉の病氣にも色なあつて先づ喉頭結核を始め種種も却つて

すれは 獨帝の御病氣といふのは電報せい

一の御病氣とすれば、私もよく聞かぬが、多分食道やけの喉頭癌では無からうかと思ふ。喉頭癌といふのは重症になるものであるが、現代の咽癌が腫れて來て呼吸が閉塞するものであるが、現代の咽癌ならば左葉に貫通せたらしく、喉を食してしまふことが出来る。又た腹

病ならば左葉に貫通せたらしく、喉を食してしまふことが出来る。又た腹

も申し上げ兼ねる、猶ほ斯う申した處で現皇

果して先帝と同一の御病氣か何うか私も知らない  
堀田子爵の拘引  
十餘萬圓の横領―西美鐵道事件  
津山地方裁判所の囑託にて二十五日  
東京警視廳へ拘引されし子爵堀田正  
樹領したるなりと猶ほ辯護士八束

壯丁朝鮮に回還す

露國官憲の警戒——證明を要す

近來大連港より汽船出航毎に二三十名乃至五十名の露國臣民が南洋其他への出發を名として其實俄兵忌避の爲め頗る警邏を企て居ることは一々露國官憲の警戒を要する事なり之が爲め昨今大に其數を減じざるを嚴禁を思召する 露國臣民は是

民政署に  
乗船困難となるを知るや奉天と

族鎭<sup>しほ</sup>に於て實地演習を行ひ豫備<sup>よび</sup>なしして本年五月頃迄辛うじて暮しつゝ  
 幼手は例に依り節子乗りの曲藝をたるが仁川では思はしき儲け口もな

上々の大景氣

風の吹ぬしも今年のやうでは下  
 働勞 働者も案外香氣なものである、本年  
 も除すところ一週日に充たない歳晚  
 の大版は

▲案外の好景氣である、先  
 づ労働者界の方面から眺めるこつ  
 ち、最近の労働界の盛衰は、  
 高陽、警察二名の懲官が二十二日午

アンペラ包(づ)か  
 ら燕尾服

賃を出しても職人が無しので困つて  
 ゐる位である(大阪支局)

し來り各會社工場と

積は、主として、東洋、南洋の各工場  
 では、女工の大募集を開始した爲め、九  
 州北部の豊前、豊後地方では募集職  
 が開始されつつある程で、従つて現  
 在、大阪市中には手持無沙汰で遊んで  
 居るやうな無職の者は一人もなく、勞  
 働者、職工、女工、男工、小工、大工、  
 ツクコ、イト、金銀販、靴などの如き高價な  
 品物、見舞品、約三百五十圓餘のもの  
 を携へたる者が、有無を言はず、本學  
 校に致し來つて、此處は、同業管内  
 龍江面居住の李錫佑（ニ）なること、  
 明し、右の振替品は、二十日、白雲京

であるかと聞いて見ると、  
古藁屋は今春来不景

氣を見越して前枯の十二月なんか念  
 頭に置かずに従つて商品仕入も控へ  
 目鼻だつたのが御大典の景氣風が吹  
 び来りて思ひがたうと來てうから

由にて贓品は全部被害者の手に歸  
 し犯人は検事局へ送致されたり

出入の強盜

が好いからであるが質

屋上から見て、妙な所へ、空へ一層か  
 昨今からが、ばつ／＼入れるのが増  
 して来るのが、本年は何所にも入る  
 方のお客様は、數なく出す一方であ  
 るに、流れるものも數なく、萬一流れ  
 物に、出張し、賊を取押へんとした  
 り、に、現貨に、逃走しつゝ、あ  
 るを、認めた上、

呉服屋の模様はど

見ると同じ好景氣と云つても市中は  
かゝるの好景氣では御間屋なんかは歌  
りであるが、市中の好景氣は地方に  
及ばずと見え、地方人に實行も相  
當にある。本町を中心とした吳服販  
物の御間屋でも本年は米が安くて比  
例的に侵入し携帶せる庖丁を擬して  
脅迫し響二個を彈強したる際順彦  
と搭附し庖丁を以て同人の左手に叩  
つけた上遂に逃したる言ひ白したる  
が尙餘罪ある見込にて引續き同居

に於て嚴重取締中

初荷の景況も近年に見

も出来ず、遠方に暮れ居る事を仁川  
目を進行中一人の鮮人が線路を横断  
せんとするより、警笛を鳴らし速度を

忘年会で箱止め

共進會に引づく御大典のあとを受けた京城の今年の暮の景氣のいい事は市中を歩いて到る所「名刺端」の印刷年内はお断り申上候」と記した看板の散見するでもその一た立看はれる全く其通り近頃の市中

近年にない賑ひを呈し

ついでくるのは斯の道の

ひだも今年は一切合財目出度づく  
でやつて来た丈その色合も極めて  
鮮かに現はれてゐる、  
年は説聞となつて表立つた官廳側  
忘年宴會が一切無く随つて一般の  
も遠慮氣味だつたため屋臺店の太

大に息をついた小料理屋

相當に客を容れてゐる。その結果、藝者の方も素敵な勢ひで十日過ぎからは眼が廻るばかりのしきだ、京城券番の如き二十一日

つた向きも 大分あ

たといふ次第、中券番には内箱が  
いふこれも京城券に劣らぬ景氣は  
んなものだ、此の景氣を見越して  
今年は新年を當込みに披露日をす  
ものが多く今月になつてから京城

由東京種三分に大阪が十  
合大梅田までは未だ重

人は披露目をする筈で手續中であ  
さうだ、料理屋の忘年会は大抵毎  
二組三組あつて座敷の遺線に座す  
が少くない。こんな景氣で既に北  
千代本、清華亭などでは

ケ日限といふ事に決定し

阿片で頓死 二十五日正午  
京坂 太牛通 二丁目に年齢四十七

福に至るの道 （渡月） 新平が改良した家庭

[illegible]

電話  
平興府

稅關貨物取扱人  
日本海上保險會社代理店

■ 日本料理改革

世界

村井枝廣先生新案を發表す材料にする  
料に美味を調理し體力を強健にする  
國民生活の緊急問題

小説雪中梅 下田 敏子

日新三景四投票數發表表

△趣味實益兼備の意匠▽

吾が作に  
**欲し花嫁**  
 …愛恋の爲に各名流夫人方よりもの贈進  
 事合縁及び交見必讀の要要文書  
 正髪（名子）の結（名子）ひ方（名子）  
 月髪（名子）の結（名子）ひ方（名子）  
 …宮家の元日はドンナ遊するに樂むが  
 …枚重ねの着方ニ天帝の縁ひ方  
 …元旦母を伸て伊勢参宮…  
**日料理改良意見**  
 井井野先生新案を發表す材料を經濟に…  
 …に美味を添へし即力を賜ひにす  
 …國民生活の關心  
**事實雪中梅**  
 小説 下田 照子  
 本新二景回投票數 發表  
 △趣味實益兼備の意匠▽  
**家庭双六**  
 △彩色美麗家庭大參考▽  
 …子供齒の生え初め注意…  
 …家事の大經濟布巾の始末…  
 …常懸賞小説…  
 …道通流神話…  
 …家庭龍卷…  
 …小説龍卷…  
 …仙人は女子教師卒業生…  
 …遊藝せる可否…  
 …東京京橋實業…  
 …拾五錢郵稅本號貳錢半…  
 …一圓…  
 …五錢…







[illegible]















須藤南翠作

商  
非  
年  
條  
盛

A black and white illustration of a river scene. In the foreground, a large, gnarled tree stands on the right bank, its branches extending over the water. Several boats are on the river; one in the center has a person standing on it, and another to its right has a person lying down. In the background, there are rolling hills or mountains under a cloudy sky. The style is that of a woodcut or a detailed sketch.

同つて選發したとき、志津ヶ嶽の  
 防備も心許なく、且は陣中見聞の  
 にて、家臣坂井與右衛門、江口三郎  
 兵衛、望月文九郎以下、小姓八郎一  
 人、  
 當分の間構内接續電話を廢し凡  
 つて是直電話にて左の通り御し  
 出被下候  
**本社電話番號**  
 編輯用 一四番  
 營業用 二一四番  
 發送用 六六番  
 二六一六番

十餘人を召連れ、酒肴などを多く用意して、船八艘に乗り寄り、坂本を過ぎ出したのは、二十日未明の時であつた。

突如、水夫舟手を揃へたので、瞬間に湖心に漕ぎ出して、稍や北近へ江の山々の近くなつた時、着に水を注ぎて響く傳ふる物音が聞えた。岸は耳敏で、聞いてゐたが、

「綱れもない鐵砲の音サヤ、さて心こぼす氣」

言ひも訖へぬに、斷と身を起して船形を出た。而て遠眼鏡をさし伸べて、彼方にきつと目を注ぐと、唐前に亂る、旗馬標が、手に取るやうに目に映ず。

「ふむ、志津ヶ嶽は合戦場中さうなうか、」

志津ヶ嶽を記せばなるまい、

長秀は獨り呟きながら、猶も熟睡す。

入院 院主 佐々木杏造  
 胃腸病院  
 大坂市北區東船場三丁目  
 電話二五九號  
 春夜別あかぬ珍診  
 表情無眼内容空乏  
 ねが花 十三錢切手  
 十三錢送れ直送す  
 大坂市北區東船場三丁目

一年三百六十五日使へるも亦日記也。而も「國民日記」は、製本堅牢、紙質精良、裝幀優美にして、毎日記載欄下に古今百般の重要知識を網羅し、國民日常生活の好伴侶たらしむ。何人にも至極重寶なる年末年始の好贈答品也。

取次所 京城太平通一丁目  
振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

大正五年  
國民日記

定價四十五錢 郵税八錢

元日使用すれば一年の計立つ

費つて直ちに役に立つものは日記也。

千人の智も此の一巻に及ばず  
一度び手を觸るれば、御大禮記を始め  
政治、經濟、財政、金融、軍事、外交、教育、  
宗教、文藝、美術、運動、遊藝、演劇、相撲、  
囲碁、將棋、都市、植民地の現狀は勿論  
歐米、支那、其他現代人物、銀行會社等  
社會萬般の事象一として漏す所なし。

年末年始の絶好贈答品  
 大正五年  
 國民年鑑  
 定價五十錢 郵税八錢

●三百番香水は優雅な香で、長い時間空を保つて居ります。  
 ●香は人によりまして、嗜好を異にしに居りますから、先づ三百番として六種の香を異にするも  
 のを發賣いたしました。更に追々種類を増やうと企圖せられています。  
 ●香水は折角高價を拂つて求めても、その香が嗜好に合はない場合が多い。三百番香水は一罐毎  
 に小標の見本を添へてありますから、お嗜好に合ふものをお召しになる便利があります。  
 ●普通香水は客先の意見を飾る爲に餘分に高價なものなる弊がありますが、三百番香水は正味  
 のみを目的として居りますから、自然價格も無難の低廉なものになつて居ります。

東京市日本橋區橘町四丁目  
 藥劑、滋養品、石鹼、化粧品、小物問屋  
**丸見屋商店**  
 電話第七〇三ヤ、振替貯金口座東京七一〇番  
 電報號兼部局第三〇四八四四九四五番

種類

ヴァエオレット  
(すみれ)

ロリー  
(はな)

リリ  
(ゆり)

ムゲツト  
(花の名)

ミモサ  
(花の名)

ブルーケイ  
(花たじ)

○ 三百番香水

さ さん びやくばん かう すの

香澤で、經濟で、而して最も優良な

價 定

一均種各

大樽入……金二圓五十錢

中樽入……金一圓五十錢

小樽入……金五十錢



熟した椿の實の皮膜を去り、冷壓法を以て搾取したる毛髪の衛生に適し、色艶を麗しくする、純良なる椿油

# ○ニツワ椿油

定價  
 小樽入 一 定 價 一 金 二 十 銭  
 中 樽 一 金 三 十 銭  
 大 樽 一 金 五 十 五 銭  
 桶 入 一 金 二 百 十 銭

毛髪には何故椿油が宜いか？  
 正と云ふと、純正な椿油は不乾性油と云つて、流動の性質を失はず、滲込む力が強く、醜敗する憂ひがなく、肌ふべき臭氣を發しないからである。

椿油にも不完全なものが多い  
 然し椿油と稱しても、完全に椿油の特色を發揮するものは先づ無いと云つて宜い位で、或は非度く酸化して居たり、或は色を汚くする爲に白緑（一種油）を交たり、精十、日光、アルカリ等で處理して一見純粋の椿油と違はぬやうでも其の性質は變つてゐるものが多いのである。

ニツワ椿油  
 つばきあぶら  
 製造法を改良して、冷壓法で、力なる水車機を用ひ、少しも熱を加へずに搾取した新鮮、純良なる椿油で、平素此ニツワ椿油を使つてゐると毛髪に海苔む力が強いから。

毛髪を助ける  
 毛髪は氣を接觸することが少く、微て空氣が毛髪に接觸する時、汗と云つて、毛髪に黒い色素が度々に減り、赤毛や白毛に早く成り易い憂を除き、減つたり臭氣を發する等のこと無く、何時も麗々しい潔癖色で、翠毛、折毛などの憂は決してないものである。